

Devotion Guide/ユースマナ Youth Manna マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。	2023/1/9(月) 創世記4章 アダムとエバの間に長男カイン、次男アベルが生まれてのち、人類史上最初の殺人事件の記録だよ。 ①主がカインのささげ物に目を留めなかったことに対して、カインは憤る(5)。 ②カインは罪を制御できずに弟を殺す(8)。挙げ句の果てに「アダム？そんな人知りません。僕は弟の番人じゃないんですから…(9)」と言い訳。 →★失敗したら、言い訳せずに正直に謝ろう。 ③それでも主は、カインに住む場所を与え、町を建てさせ、子供も与え、子孫を増やした(16-23) →★神様は私達が罪を犯して失敗してもあわれみ、恵みをくださる方。 ④カインの殺人に7倍の復讐があるなら、レメクには77倍の復讐が(24) →★罪による悪い実はどんどん大きくなって取り返しがつかなくなる！(ゼカリヤ5:5-9) 今日、何かを失敗したら、神様にも謝ろう！大きくなる前に対処するのが大事だよ。	2023/1/10(火) 創世記5章 アダムからノアの歴史(系図)が書かれているね。 ●人はどのような存在として造られたと書いてあるかな？(1節) ●アダムは彼の似姿として、彼のかたちに男の子を生んだ(3節)。これはアダムとエバが罪を犯した後も、神のかたちは失われることなく子孫に引き継がれていることを意味しているよ。罪が入ってしまったけれど、神様の祝福は継続しているんだ。 ●系図の中で、エノクは特別な存在だった。彼がどの点で特別だったか読んでみよう(21-24)。神様がエノクを喜ばれていたように、自分も神様に喜ばれる歩みができるように祈ろう！	2023/1/11(水) 創世記6章 ノアが生きた時代も、神を恐れない人が大勢であった。主はそれを見て、人が限りのある存在であることを知って神に立ち帰るために、「人の齢は百二十年にしよう」と宣言した。しかし、人は神に立ち帰ることはなく、その悪は地上で増大した。主は人を造ったことを悔み、被造物を消し去ることを考えられた。その中でノアは主の心になっていた。神はノアに箱舟を造るよう命じられ、ノアはそれを、信仰をもって命じられた通りに行った。 主は、信仰者が主のことばに信頼して歩むことを願っておられる。この地上の人生で、信仰をもって神とともに歩めることを感謝しよう！
2023/1/12(木) 創世記7章 今日の箇所は誰もが知るノアの方舟の40日40夜の雨が開始されたところが記されている。この大雨によって悪に満ちた世界は水で満ち、ノアの家族以外の人類を神様はリセットした。 私たちは神様の命令をどこまで従うことができるだろうか？ ノアのようにある意味あり得ないことに真っ直ぐに従うことができるだろうか？ 今の世の中を見て時代がどれだけ進んで世界は便利になっても、罪は全く変わらないどころか、悪い方に進んでいるようにも見える。 いずれ神様の時は必ずくる。救いのために祈ろう！！動こう！！	2023/1/13(金) 創世記8章 ▶ノアは、すべて主が命じられたとおりに行ってきた。しかしノアは、いつ箱舟を出られるのか主から語られていなかった。ガラスの窓はなく、音でしか外の様子はわからない。天窓も閉じていたため、光すらまともに無かっただろう。雨が止まったあとも、箱舟は水の上を動き続けていた。 ▶ノアが外の世界を見たのは、箱舟に乗ってから10ヶ月以上経ってからだった。ノアは地の面が乾いているのを見たが、しばらく箱舟にとどまった。彼は神様からの語りかけを待っていた。神様から語りかけられ、箱舟を出たのは、外を見てから更に60日ほど経っていた。ノアは箱舟を出て1番最初に、主のために祭壇を築き、全焼のささげ物を献げた。主への感謝と献身を表したのである。 ▶見えなくても主に信頼し、見えてもなお主に従ったノアの信仰から私たちは何を受け取るだろう？	2023/1/14(土) 創世記9章 神様はノアと息子たちを祝福して、それと同時に2度とこのような洪水で地を滅ぼすことをしないと契約を立て、約束の虹をあたえられた。神様はあわれみと愛に満ちた方で人が神様に造られたものとして歩めるよう、導こうとしている。その後、ノアの失敗、ハムの告げ口、セム、ヤフェテのフォロー、祝福と呪い…と9章は本当にいろんなことが起こったね。 私たちもノアやハムみたいに恥ずかしい失敗をすることも、悪意をもって行動しちゃうこともある。だけど、神様の愛とあわれみもずっと私たち人に注がれているよ。 神様の愛を受け取るとき、私たちにできる応答はなんだろう？考えてみよう！	2023/1/15(日) 創世記10章 この箇所では、ノアの息子であるセム、ハム、ヤフェテとその子孫たちが大洪水の後、地上に増え広がった歴史が語られている。まずヤフェテの子孫から語られており、彼らから海沿いの国の民が別れ出て、それぞれの地に言語ごとに、氏族にしたがって国民となった。次にハムの子孫が紹介され、彼らはカナンから南に住むようになった民族であると考えられる。ノアに呪われたハムの子孫であるクシュの子ニムロデは武勇もあり、地上で最初の王になったがそれは神様のあわれみ以外何者でもない。最後に、セムの子孫が紹介されており、彼らが住んだ地は、メシヤからセファルに及ぶ東の高原地帯と書かれている。こうして地上に民族が分かれ出、広がっていった。それはある面で神様の祝福であるが、次章を見ると神様のさばきの結果とも取れる。神様は終わりの時に、地に散らされた民をキリストにあって一つに集められる計画をもっておられる。 祈り：終わりの時、民族、ことば、文化など、様々な人々がキリストにあって互いに愛し合い、一つになって神様を賛美できますように。